

コラム

みやちゃん と ご一緒体験記

Vol.21

【新しい日常を生きる⑦～知らないより知っている方がいいに決まっている!～】

家族ががん闘病中だった頃、2度介護サービスを受け、サービスを受けた時期が違うため2人のケアマネージャー（以後、「ケアマネ」と表記）にお世話になりました。昨年夏、認知症と診断された田舎の母のために、現在は母のための2人目のケアマネがいろいろお世話してくださっています。何故、1年も経たないうちにケアマネが変わったのかというと、介護度によって支援する管轄が変わるからです。ということで、私はこれまで4人のケアマネ（全て女性）と連絡をとりながら介護サービスを受ける家族のキーパーソンとなりました。皆さん、特に問題はなくいい関係性がもてたのではないかと思います。

ところが、先日オンライン女子会をしたところ、「母親の介護をしているのだけど、ケアマネに問題ありなので悩んだ末、変更してもらった」とか「説明が下手で言うことがわからないし、対応が遅いので困っている」といった愚痴をきいてびっくりしました。特に、「ケアマネを変更してもらった」という点です！ ケアマネを変えなければならないほど問題ある人が介護業界に存在するということや利用者の都合で変更できるという事実には驚いたのです。ということは、変更せずにすんだ私はラッキーだったのでしょうか？ それとも、4人の方々があれこれ言いたいことをズケズケ言う私に圧倒されガマンしてくれた（いる）のでしょうか？

そうなのです！ ケアマネは選ぶことができます！ 自身の周囲に介護を必要とする方がいない場合、多くの場合、介護保険や介護サービスの受け方についての知識が少なく、関係機関に連絡・相談し、その結果、ケアマネがいつしか選ばれ、そのケアマネが作成したケアプランのもとに介護サービスが進められていく仕組みになっています。ケアマネの図鑑をみて、「どの人にしますか？」とか「知り合いがいらっしゃるならその人にしましょうか？」といったことは言われぬものです。

自身がのぞむ医療をうけるために紹介やインターネットで調べてグッドドクターを選ぶ権利がある

ように、介護サービスの要となるケアマネを自分で選び決定する選択肢もあるのです。そして、ケアマネが作成するものとはばかり思っている(?)ケアプランも自身で作成できるのです。言い方を変えると、ケアマネの支援を受けずに介護サービスを受けることができるということなのです。

だからと言って、私は「ケアマネを使わずに介護サービスを受けた方がいい」と推奨するわけではありません。諸事情でケアマネが担っていた仕事の内容をこなす時間が現在の私にはないし、誰でもできる仕事ではないし、それどころか重要な仕事だということを知っていますので。ただ、選択肢のひとつとして有るということをお伝えしたいのです。

そう思ったのは、9月23日にオンライン開催された「介護保険の仕組みとマイケアプランについて考える研修会」(HAP主催)に参加して気づいたからです。大事な人の介護サービスを充実させるために自分の手でケアプランをたてるのが理想なのかもしれませんが、複雑な介護保険の制度を知る専門家でないと時間がかかるのは事実で、実際、ケアプランを自己作成している割合は全体の0.05%に過ぎないそうです。つまり、99.95%がケアマネによって作成されているのが現状とのこと。

当日、講師をつとめられた島村八重子の報告に対して、次のような意見がでました。

○ケアマネがいい仕事をしていて問題なければ変える必要はないが、ケアマネがどのようにして選ばれるのか「見える化」の仕組みがあるといい。

○ケアマネを使わないで、自身でケアプランをたてるのがいいのかわからないが、選択肢はあったほうがいい。

○自身で勉強して、ケアプランをたてたれる知識と時間があれば自分でたてることも考える。

都道府県をまたいでケアマネを選ぶことも可能です。たとえば、懇意にしている優秀な知り合い(他県在住)がケアマネで、その方をケアマネとして利用するという選択肢はあり得ますが、移動が大変な上に地域の資源がどのようになっているか知らない(はず)なので、知悉している地元のケアマネを選ぶほうが賢明とのこと。

40歳を過ぎたら、日本国民はみな介護保険に加入していることは知っていると思います。活用できる資源は最大限にいかし、納得のサービスを受けたいですね。選択肢は多い方が貴重な時間を有意義に使うことができます。そのためには知らないより知っている方がいいに決まっています。どんなサービスを受けるかはあなた次第です!

★「介護保険の仕組みとマイケアプランについて考える研修会」(HAP主催)は、定期的にオンライン開催されています。

<http://www.hap-fw.org/>